

「場」と「空間」から読む、 朝鮮洗濯の近代

砂本文彦氏

神奈川大学日本常民文化研究所 所員
国際日本学部 教授

日時：2026年1月21日(水)17:00～18:30

【開場：16:30】

開催形式

対面：横浜キャンパス 9号館12室

オンライン：Zoomミーティング

申込み後、IDと
パスコードが
自動返信メー
ルにて送信さ
れます。



「場」と「空間」から読む、朝鮮洗濯の近代

朝鮮の伝統衣装である白衣は長らく川辺で洗濯され、その風景は日本人によって「朝鮮の伝統」として写真に記録されました。しかし植民地期に入ると、同じ風景が社会問題としても捉えられます。白衣の洗濯は長時間を要し、女性が川辺に滞在せざるを得ないこと、さらに都市化による河川汚濁で清水の確保が難しくなったためです。白衣の洗濯を伝統として見出した日本人の眼差し、それを改善しようとした植民地権力、そして失われつつある白衣文化を民族的伝統として再構築しようとした朝鮮側の視点。この複数のまなざしの交錯を理解するうえで、빨래터と공설세탁장(いずれも洗濯場)の対比は示唆的です。自然の中に開かれた「場」としての빨래터と、近代的空間装置としての공설세탁장을手がかりに、伝統的習俗が近代化の中でいかに再編されたのかを考えます。洗濯は共同体の象徴として守るべき文化だったのか、近代化すべき家事労働だったのか、あるいは女性に集中した文化的負担として再評価すべきなのか、整理してみたいと思います。

